

二世世代交流もちつき大会

12月14日(土)、雲ひとつない青空のもと西公民館で三世交代交流もちつき大会が行われました。朝早くから老人会の方々準備にとりかかり、9時にはもち米の蒸しあがる匂いがしはじめました。今日の主役きねとうすを囲み、館長さんのあいさつがはじまるころには、ワクワク顔の子どもたちが、色とりどりのエプロンと三角巾で、30名ほど集まってきました。今日が楽しかったとっていた子どもたちの声を聞いてみたいと思います。



▲わ一、おじいちゃんの手をたたきそう

もちつき大会

松前小学校一年四組

みつやす ほなみ

わたしは、12月14日(土)に、西こうみんかんのもちつき大会にちかくのともだちといっしょにいきました。している人が、いっばいいたので、はずかしかったです。おじいちゃんとおばあちゃんが いっばいいました。

さいしよに、おもちをまるめました。わたしは、おもちをまるめてから、あんこを中にいれました。とつてもしんどかったけれどたのしかったです。つぎには、おもちを、おじいちゃんたちといっしょにつきました。おもちをつつきね

はとつてもおもしろかったです。おもちをついていると、西こうみんかんのおばあちゃんがしんをとってくれました。西こうみんかんの方がさかんしように、おもちとおかしをくれました。じぶんでついたおもちとはとつてもおいしかったです。おかしもあるいろいろなものはいっていました。

もちつき大会は、とつてもたのしかったです。またらいねんも、もちつき大会があったらいきたいとおもいました。楽しかったもちつき大会

松前小学校三年二組

墓野 史也

ぼくは、もちつき大会に、はじめてさんかしました。友

だちと行きました。あとから、おかあさんとおとうとがきました。

家では、もちつきで作っています。西公民館では、きねとうすでつきました。はじめでだったので、ちよっとむずかしかったです。でも、おじいさんがいっしょに持ってくれたので、なんとかつきました。自分一人でもつかせてもらいました。きねの使い方が、むずかしかったけれど、楽しかったので、なんどもつきました。

そして、つきたてのおもちをまるくしました。でも、あまりじょうずにできませんでした。あとで、おもちとおかしをもらいました。次もさんかしたいです。

伝えたい・感じたい思い

古城幼稚園教諭

川下 三枝子

去年9月、92年の生涯を終え、祖母が他界した。私の中に祖母との思い出がよみがえる。私が幼いころ、祖母にはいろいろな話をしてもらった。

特に、祖母が体験した戦時中の話は、今でも胸に焼き付いている。「昔は日本でも戦争が起きて、爆弾積んだ飛行機がよー飛んできよった。その度に警報が鳴り、家中真つ暗にして隠れよったんよ。それはそれは恐ろしかった。」今にも空爆の音が聞こえ、まるで自分自身が体感しているような恐怖を味わったことを覚えている。

戦争の話になると、祖母は決まって戦争に行った祖父の話をした。家族との再会を目前にしながら、病でこの世を去った祖父のことを思い浮かべ、時折さみしそうに話す祖母の言葉からは、残してきた家族に思いをはせ、生きたいと願いつつ、命絶えた祖父の無念さが何え、胸が熱くなつた。

また、祖母は、歴史の話が好きだった。感心しながら聞いている私に「本当は〇〇になりたかったけん、一生懸命勉強したんよ。」と教えてくれた。「何でならんかったん。」

と云いかけ、私は話をそらしたような記憶がある。それは、夢を抱きつつも叶えることすら難しい時代が本当にあったのだということ、何気なく感じたからなのかもしれない。祖母の話は、決して明るいものばかりではなかった。でも、話の一つ一つには、様々なメッセージが込められていたように思う。「平和への祈り」「家族への思い」「たくましく生きるということ」「夢を持つことの喜び」…

私は、幼いころから夢に抱いた幼稚園教諭となり、これまでたくさん子どもたちと出会った。泣き虫な子、甘えん坊な子…。一人ひとりが送る思いを私はどれだけ受け入れることができたのだろうか。私は、この子たちにどんな思いを伝えることができるのだろうか。

「大きくなつたら〇〇になる。」と無邪気に語る子どもたち。純粹な心を持つ子どもたちと、今をいっばい語りながら、その思いを感じ合い、伝え合っていきたい。そういう保育を大事にしていかなければならない。そう思いながら祖母の姿がまた浮かんだ。